

今年度の特別企画第2弾

「道東のコウモリ展」のお知らせ！

根室市歴史と自然の資料館、近藤憲久学芸員のコウモリ研究の集大成とも言える「道東のコウモリ展」を当館で開催することになりました。

別海町での調査や、近年は国後島での調査も実施し、まだまだ謎の残るコウモリの生態についてご紹介いたします。ぜひ、ご覧下さい。

●期 間 平成24年9月3日（月）～28日（金）

●場 所 別海町郷土資料館 第2展示室



コウモリの剥製 12 種類



コウモリの生態がわかります。



コウモリの調査やねぐらを紹介しています。



コウモリに関する本や論文を読むことができます。

第10回加賀家文書館特別展 好評開催中！

「義経伝説とヲ子コイチャシとチフルチャシの物語」

「加賀家文書」には、場所請負人の場所支配に関する継立御用文書、申渡書、アイヌ語和訳、和文夷文、写本、版本、書簡など多様な文書資料があります。その中には、別海町や根室地方を描いた地図や絵図なども含まれ、当時の様子を知らせてくれます。

本特別展で、ご紹介する「義経伝説」「ヲ子コイチャシとチフルチャシの物語」は、当時の伝説や物語として大変貴重なものとなっています。メナシ地方で躍動する義経、弁慶。二つのチャシの争いの物語の世界を通して「加賀家文書」に対する理解が深まれば幸いです。

●期 間 ～10月31日（水）まで

●場 所 別海町郷土資料館附属施設 加賀家文書館



床丹 1 チャシ跡の調査を実施しました。

8月21日（火）・22日（水）に町内埋蔵文化財包蔵地「床丹1チャシ跡」の試掘調査を道教育委員会文化財・博物館課文化財調査グループ田才雅彦氏の指導のもと行いました。

「床丹1チャシ跡」は、国道244号線ライトコタン川左岸付近にある周知の埋蔵文化財包蔵地です。

近年、チャシの北側の崩落が著しく、自然崩壊する恐れがあるため、事前の調査として今回、試掘調査を実施しました。

チャシとは？

アイヌ民族が16世紀から18世紀頃に構築したもので、最初期のチャシは聖域としての性格が強く、次いでアイヌ族内での緊張状態の影響からチャランケの場として用いられるようになり、和人との戦いが激しくなると軍事施設としての役割が大きくなっていったのではないかと見方があります。

さらに宝物が見つかることが多いことを指摘し、チャシはアイヌの富裕層が蓄積した宝物を保存する施設だったのではないかとの説もあります。文献史料が存在しない、発掘調査例も少なく成立時期も不明であり、詳しいことは殆ど判っていません。

チャシの総数は不明であり、地名や伝承には残っているもののチャシの遺構は見つかっていないものも多い。1992年時点では526カ所確認されていますが、謎につつまれています。

チャシは基本的には高い場所に築かれ、壕や崖などで周囲と切り離された施設であり、その形態には孤島式、丘頂式、丘先式、面崖式などがあります。1643年にオランダの商船カストリウム号が残した記録には、山の上に柵を張り巡らしたもので、柵の内部には2、3軒の住居が存在していたようです。

床丹 1 チャシ跡の試掘調査

床丹1チャシ跡は、孤島式で、二条の壕で区画されています。頂部には畝の跡も残されていました。海側は残念ながら、大きく削られています。

今回チャシ跡の頂部や壕、畝の跡に試掘溝を設けて、チャシの状況を確認しました。頂部では柱の穴の跡、壕では本来の壕の姿をしっかりと確認することが出来ました。今見ているものはあくまでも今の姿であり、数百年前の本来の姿は、保存状態も良く地中深く残っていることがわかりました。

今後の調査については現在検討中ですが、貴重なアイヌ文化期の遺跡を守ることは、今を生きる私たちの役割であり、チャシの謎を解明するきっかけになると考えています。

引用・参考文献『アイヌのチャシとその世界』北海道チャシ学会編（1994）など



壕の部分



畝の部分

別海町郷土資料館だより No.158

発行日 平成24年9月1日

発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

8月は、やっぱり夏は来たかという感想です。お盆明けから猛暑でチャシ跡の調査時がピークでした。このたよりを作成している今も気温がどんどん上がり続けているようですが、もはや本州並でしょう。現在特別展を2つ開催しています。通常より2倍お得です。是非、お越してください。(K.I)